

年をとるという事

平出水小学校 四年 平出水 良聡

ぼくのおばあちゃんは、今、入院して家でいません。ぼくたちは、おばあちゃんとずっと一しょにくらしてきました。でも、去年の秋、散歩の帰りに庭でたおれて、そのまま入院となりました。理由は、だっ水しょうじょうで意しきがもうろうとしていたせいでした。ぼくは、おばあちゃんが救急車で運ばれた時、ただ見ている事しかできませんでした。

おばあちゃんは、今でも色々な理由で家に帰って来る事ができません。むずかしい病気のせいです。春にお母さんと一しょにお見まいに行った時、会話がうまくできなくて、今までのおばあちゃんとちがう状態になっていて、とてもおどろきました。

年をとると、人間の体はどのように変わっていくのでしょうか。ほとんどの方が、耳が聞こえずらくなり、目も見えずらくなります。

きん肉や骨も弱くなり、足こしが立たなくなり、今までは元気にくらしていても、病気のせいで、できていた事ができなくなっていく事は、とても悲しい事です。元気にくらしたいと願う気持ちはみんな同じですが、人間が年をとる事がだれにも止められません。

しかし、人間には、知しきと技じゅつがあります。年をとったとしても、予防や対さくをする事で、今までに近い生活を送る事ができると思います。例えば、耳が聞こえにくかったとしても、ほちよう器を使えば、会話が楽しくなります。目が見えにくくなくても、めがねや手じゅつで見えや

すくなります。また、足こしが弱くならないように、運動やマッサージのサービスがあります。おばあちゃんも、技じゅつがもっと発てんしたら、機械を使って、コミュニケーションが上手にとれるようになるかもしれません。

ニュースを見ると、これからの未来は、ちよう高れい化社会と言われていています。若い人たちが少ない時代になります。そんな時代は医りょうと福祉の問題は、今まで以上に深くになっていくと思います。年をとるのは、みんな同じです。みんながくらしやすい社会になるにはどうしたらいいのか、おばあちゃんを通じて考えさせられました。

今、ぼくのおばあちゃんは、まだ、病院に入院しています。たまに、オンラインで会うことができますが、話が通じなくて、ぼくたちの事をあまり分かっていません。でも、元気でいるだけでもぼくはいいです。

年をとっても、元気な体ですごす事がどんなに大切か、五十年後、六十年後、ぼくも元気にすごせるようにどうしたらいいか、今から考えていきたいと思います。

病気にならないようにする事は、なかなかむずかしい事ですが、運動や食事に気をつけていきたいなと思います。そして、ぼくたちが大きくなった時、もっと、技じゅつが発てんしているといいなと思いました。